

平成 20 年度 <すぎなみ大人塾> 昼コース

公開講座「地球の力～世界がもし 100 人の村だったら」

ゲスト：池田香代子さん（翻訳家） 08 年 10 月 9 日

## 【主な内容】

### 「世界がもし 100 人の村だったら」出版の経緯

・2001 年 9 月 11 日にアメリカで事件が発生した時は、私自身、それまで世界の平和問題について深く考えたことがなく、これから世界はどうなるのか、私に何ができるのか、よく分からなかったが、ペシワール会の中村哲先生が緊急募金を呼びかけていることを知り、寄付なら私にも出来ると思った。それが「もし世界が 100 人の村だったら」を出版するきっかけとなった。

・この本には原案がある。アメリカの環境学者で『成長の限界 ローマ・クラブ人類の危機レポート』の共著者の 1 人であるドネラ・メドウズが新聞に書いたコラムがメールに流れ、受けとった人々により加筆されながら世界中に広まった。そのメールを修正・再話して出版したのが『世界がもし 100 人の村だったら』だ。

・幸運にも『世界がもし・・・』はベストセラーとなり、その印税で「100 人村基金」を設立。NGO や日本国内の難民申請者の支援をしている。また、パキスタンのアフガン難民キャンプにある女子小学校を資金支援する「アルイルム女学院を見守る会」にも参加している。

### シリーズを通して表現したかったこと

・『世界がもし 100 人の村だったら』出版後、その解説編となる『世界がもし 100 人の村だったら 2』を出版。この本では、一つひとつの数字の背後にどのような問題があるのかを検証した。

・原案のコラムは、「世界がもし 1000 人の村だったら」と 100 人ではなく 1000 人。世界の人口は、統計学的には 1000 人までなら縮小しても許される。しかし、「世界が 100 人の村」と聞くと、人はハツとする。それには根拠がある。文化人類学者によれば、類人猿の脳新皮質のサイズと、類人猿が作ることのできる群の人数は比例しているという。人間の脳新皮質のサイズだと、その人数は 100 人から 150 人程度になるそうだ。実際、100 人程度の規模なら、自分の周囲を見渡しても名前と顔が一致する。それで 100 人となったバージョンが広まったのだろう。

・半面、100 人にしたことによる不都合もある。1000 人の村なら、「5 人の兵士、7 人の教師、1 人の医師」が表現できたが、それらは項目ごと消えてしまい、教育や医療について突っ込んだ話ができなかったことが残念。医療費と教育費が GDP に占める割合が、日本は先進国の中で最低なので、よけいにそう思う。

・数字を見ると、世間一般で言われていることが誠か嘘か、よく分かる。たとえば、一昨年の日本の国民医療費は約 32 兆円だったが、この程度で“使い過ぎ”と言えるのか。ちなみに、パチンコ業界の売上げが約 30 兆円、また、パソコンと携帯電話の売上げの合計が約 28 兆円。

・数字に限らず、メディアや政府の言うことを鵜呑みにしないことが大切。昨今、“汚染米”が社会問題になっているが、この 4 月にアメリカから輸入した 2 トンの“汚染麦”は、まったくニュースにならなかった。麦は 9 割を輸入に頼っているので、表沙汰にしたらパニックになりかねないので伏せているのかもしれない。いずれにせよ、自分で調べるといった態度が必要だと思う。

・“1000人村”と“100人村”の、もうひとつの違い。“1000人村”は、環境学者が書いたものだけに、環境問題に重点が置かれている。著者は、環境に最も悪いものとして、温暖化ではなく、核戦争を挙げている。現在、世界には27,250発とも3万発以上とも言われる核兵器がある。正確な数はわからないわけだ。

### いま、私たちが考えるべきこと

・エネルギー消費を抑えるには、食料の運搬も考えなければならない。つまり、地産地消は環境問題にとっても大切なこと。輸入に頼るもの（コーヒー、チョコレート、バナナなど）は、フェアトレードのものを買うようにしたい。フェアトレードが世界貿易の10%を占めると、後の90%に影響を及ぼせる。日本はカロリーベースで60%の食料を海外に頼っている食料輸入大国。各家庭が食費の6%をフェアトレードのものにすれば、世界の食料事情を変えることができる。

・2冊目を書く中で、私が考えていたのは食のこと。国連のWFP（世界食料計画）からオファーがきて、3作目となる「世界がもし100人の村だったら3＜食べもの編＞」を書くことになった。“1000人村”は環境問題が中心だったが、“100人村”は世界の経済格差や戦争に重心が移っていた。それで、食を切り口として環境問題を補完したいと考えた。特に日本は食料自給率が低いことが問題なので、日本のこととりあげた。専門家に聞いたところでは、自給率20%も問題だが、廃棄率20%のほうが問題だという。私たちは、日本中の田や畑で生産されるのと同じ重さの食料を捨てているのだ。それは、大量のエネルギーを消費し、環境に悪影響を与えながら、安い食料を輸入しているからできることだ。さらに、私たちは一人が年平均24Kg、1500種類もの添加物・防腐剤を摂取している。そうしたものは、できあいの食品や遠くから運んでこられる食品により多く含まれている。

・シリーズ4冊目は、「世界がもし100人の村だったら4＜子ども編＞」とし、世界の子どもの状況を紹介した。「もし、世界の子どもの数が100人だったら、31人は栄養が十分ではなく、22人は予防接種を受けられない。8人は5歳まで生きられない・・・もし、1か月の間、世界が戦争にお金を使わなければ、そのお金で、2億2千万の子どもを危険な場所や不潔なゴミ捨て場から救い出せる・・・」。

### 私自身の取り組み

究極の地産地消である“家庭菜園”がお勧め。私自身も、現在西荻に住み、家庭菜園で野菜作りをしている。ソ連が崩壊した時、ほとんど餓死者を出さなかったのは、多くの市民が家庭菜園をやって、それを食べたり、市場で物々交換したりして食い繋いだからだ。日本の食料自給率の低さを解消する鍵は、兼業農家と家庭菜園だと思う。

この文章は、講演会講演録をもとに短く要約をしたものです。